

履 修 科 目 一 覧

動物看護学科				国際動物看護学科			
1 年				2 年			
科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁
動物形態機能学-I	○		3	動物看護学	○		38
動物感染症学-I	○		4	動物繁殖学	○		39
動物看護学概論-I	○		5	臨床動物看護学 I-I	○		40
動物医療関連法規	○		6	動物入院管理	○		41
公衆衛生学-I	○		7	動物病理学	○		42
伴侶動物学-I	○		8	動物薬理学	○		43
野生動物学	○		9	院内コミュニケーション I	○		44
動物内科看護学	○		10	動物看護実習 II-I	○		45
動物外科看護学-I	○		11	動物福祉論	○		46
動物臨床栄養学-I	○		12	動物臨床検査学実習 I-II①	○		47
動物臨床検査学-I	○		13	動物臨床検査学実習 II-I	○		48
動物内科看護学実習 I	○		14	動物臨床検査学実習 II-II	○		49
動物臨床検査学実習 I-I	○		15	外科動物看護実習 II-I	○		50
グルーミング実習 I-I	○		16	グルーミング実習 II-I	○		51
しつけトレーニング実習 I-I	○		17	しつけトレーニング実習 II-I	○		52
動物飼育実習 I	○		18	総合臨床実習	○		53
ビジネスマナー	○		19	動物飼育実習 II-I・II	○	○	54
動物看護総合実習 I-I	○		20	動物人間関係学		○	55
動物形態機能学-II		○	21	臨床動物看護学 I-II・II		○	56
動物感染症学-II		○	22	幼齢動物・高齢動物管理		○	57
動物看護学概論-II		○	23	救急救命対応		○	58
公衆衛生学-II		○	24	クライアントエデュケーション		○	59
動物行動学		○	25	院内コミュニケーション II		○	60
伴侶動物学-II		○	26	動物看護実習 II-II		○	61
動物外科看護学-II		○	27	動物臨床検査学実習 I-II②		○	62
動物臨床看護学総論		○	28	動物臨床検査学実習 II-III		○	63
動物臨床栄養学-II		○	29	動物臨床検査学実習 II-IV		○	64
動物臨床検査学-II		○	30	外科動物看護実習 II-II		○	65
動物形態機能学実習		○	31	グルーミング実習 II-II		○	66
動物臨床検査学実習 I-II		○	32	動物看護師学		○	67
動物外科看護学実習 I		○	33	しつけトレーニング実習 II-II		○	68
グルーミング実習 I-II		○	34				
しつけトレーニング実習 I-II		○	35				
社会人常識基礎		○	36				
動物看護総合実習 I-II		○	37				

科目名	動物形態機能学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト2(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	総論①	動物の体の成り立ち、生命の維持システム
第3回目～第4回目	総論②	植物性機能と動物性機能
第5回目～第6回目	生物学の復習①	細胞の形・大きさ・構造・働き・細胞小器官と細胞膜
第7回目～第8回目	生物学の復習②	拡散・浸透、細胞分裂、生殖と発生
第9回目～第10回目	生物学の復習③	性と遺伝、生殖の方法、メンデルの遺伝の法則
第11回目～第12回目	細胞・組織	細胞配列、各組織の構造と働き
第13回目～第14回目	器官・器官系	器官と器官系の構造と働き
第15回目～第16回目	神経①	神経系の成り立ちと構造、働き
第17回目～第18回目	神経②	中枢神経と末梢神経の構造と機能
第19回目～第20回目	神経③	脳の成り立ちと分野による働き
第21回目～第22回目	感覚器①	眼・耳の構造と働き
第23回目～第24回目	感覚器②	味覚・嗅覚・痛覚の仕組み
第25回目～第26回目	運動器①	骨格系と筋系との成り立ちと構造・機能
第27回目～第28回目	運動器②	骨格系と筋系との成り立ちと構造・機能
第29回目～第30回目	運動器③	関節の構造と働き

科目名	動物感染症学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を学ぶ。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学び、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト3(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物感染症学総論①	感染症の定義
第2回目	動物感染症学総論②	感染症の成立・感染と発症
第3回目	動物感染症学総論③	感染経路・感染経路の遮断
第4回目	動物感染症学総論④	宿主の感受性・具体的な感染経路の遮断方法
第5回目	微生物学①	微生物の定義と性状
第6回目	微生物学②	細菌の性状と構造
第7回目	微生物学③	細菌の染色法と栄養素・増殖に必要な因子
第8回目	微生物学④	細菌の培養と分類
第9回目	微生物学⑤	イヌ・ネコに感染する細菌感染症①
第10回目	微生物学⑥	イヌ・ネコに感染する細菌感染症②
第11回目	微生物学⑦	野生動物に感染する細菌感染症
第12回目	微生物学⑧	産業動物に感染する細菌感染症
第13回目	微生物学⑨	真菌の性状と構造
第14回目	微生物学⑩	イヌ・ネコに感染する真菌感染症
第15回目	微生物学⑪	産業動物・野生動物に感染する真菌感染症

科目名	動物看護学概論- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	獣医療の歴史	歴史上にみる獣医療の歴史、日本国内の獣医療の歴史
第2回目	動物看護と資格化の軌跡①	日本国内の動物看護の軌跡、資格化に向けての動きと軌跡
第3回目	動物看護と資格化の軌跡②	動物看護師の職域と現状、国際的な違い
第4回目	動物看護と資格化の軌跡③	動物看護の概念、動物看護の本質
第5回目	動物看護学総論①	動物看護の基本となるもの
第6回目	動物看護学総論②	ナイチンゲール、ヘンダーソン女史
第7回目	動物看護学総論③	動物看護師の視点
第8回目	動物看護学総論④	診療場面での動物看護師の役割
第9回目	動物看護学総論⑤	職務範囲について
第10回目	動物看護学総論⑥	動物看護の対象
第11回目	動物看護学総論⑦	動物看護過程の展開①
第12回目	動物看護学総論⑧	動物看護過程の展開②
第13回目	動物看護学総論⑨	動物看護師の社会貢献、プロフェッショナルを目指して
第14回目	動物看護学総論⑩	プロフェッショナルを目指して
第15回目	まとめ	前期 まとめ

科目名	動物医療関連法規		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物関連法規を学び、獣医療や動物を取り巻く社会的環境を法的側面からとらえることを通じて、動物看護師や動物にかかわる者に期待される社会的責務について考える。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物に関連する法律を理解し、動物看護師統一認定試・愛玩動物飼養管理士2級合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト1(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	法の基礎知識	法の種類・動物医療における看護の理念
第2回目	獣医事行政法規	獣医師法・獣医療法
第3回目	家畜衛生行政法規①	家畜伝染病予防法・BSE対策特別措置法・トレーサビリティ法
第4回目	家畜衛生行政法規②	飼料安全法・ペットフード安全法
第5回目	公衆衛生行政法規①	感染症法・狂犬病予防法
第6回目	公衆衛生行政法規②	屠畜場法・食品衛生法・化製に関わる法律
第7回目	公衆衛生行政法規③	身体障害者者補助犬法
第8回目	環境行政法規①	動物の愛護および管理に関する法律
第9回目	環境行政法規②	動物の愛護および管理に関する法律
第10回目	環境行政法規③	動物に関するトラブルに関する法律
第11回目	環境行政法規④	外来生物法・種の保存法
第12回目	環境行政法規⑤	鳥獣保護法・ワシントン条約・ラムサール条約
第13回目	環境行政法規⑥	生物多様性基本法・廃棄物
第14回目	関連諸法規①	薬事法・毒物・麻薬・劇物
第15回目	関連諸法規②	民法・労働基準法・個人情報保護法

科目名	公衆衛生学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト3(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	公衆衛生総論①	公衆衛生学を学ぶ意義、獣医師の役割
第2回目	公衆衛生総論②	公衆衛生における獣医療の役割
第3回目	環境衛生①	環境衛生とは、
第4回目	環境衛生②	人の健康と快適な生活を営むための生活環境の保全と改善
第5回目	環境衛生③	動物の飼養に伴う環境の汚染対策
第6回目	環境衛生④	人と動物に関係する環境問題、医療廃棄物、衛生動物
第7回目	食品衛生①	食品の安全性確保、保存方法
第8回目	食品衛生②	食品を介した人獣共通感染症の防止、健康危害防止策
第9回目	食品衛生③	食品に残留する抗菌材、ホルモン剤への対応
第10回目	食品衛生④	食品汚染に対する衛生活動
第11回目	食品衛生⑤	食品のアレルギー、HACCP, GLP, GMP
第12回目	食中毒対策①	食中毒とは、原因の種類
第13回目	食中毒対策②	食の安全・安心の確保、食中毒の発生状況
第14回目	食中毒対策③	生食用食肉等の安全対策、予防方法、情報提供
第15回目	前期まとめ	まとめ

科目名	伴侶動物学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	さまざまな動物の特性と人との関わりを理解し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト4(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	伴侶動物の定義	アニマルウェルフェア、終生飼育
第2回目	伴侶動物の種類・歴史①	犬の歴史①
第3回目	伴侶動物の種類・歴史②	犬の歴史②
第4回目	伴侶動物の種類・歴史③	犬の種類①
第5回目	伴侶動物の種類・歴史④	犬の種類②
第6回目	伴侶動物の種類・歴史⑤	犬の種類③
第7回目	犬の特徴①	犬の飼育管理①
第8回目	犬の特徴②	犬の飼育管理②
第9回目	伴侶動物の種類・歴史⑥	猫の歴史①
第10回目	伴侶動物の種類・歴史⑦	猫の歴史②
第11回目	伴侶動物の種類・歴史⑧	猫の種類①
第12回目	伴侶動物の種類・歴史⑨	猫の種類②
第13回目	猫の特徴①	猫の飼育管理①
第14回目	猫の特徴②	猫の飼育管理②
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	野生動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	さまざまな動物の特性と人との関わりを理解する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト4(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	野生動物の定義	野生動物の条件、自然選択と人為選択
第2回目	野生動物の種類と生息分布	日本に生息する野生動物たち
第3回目	野生動物の食性	草原性動物、森林性動物、荒原性動物
第4回目	外来動物	外来動物の原因、影響、対処について
第5回目	展示動物の定義①	基本的な考え
第6回目	展示動物の定義②	種類の選択、繁殖、終生飼育
第7回目	鳥獣害①	野生鳥獣による農林水産被害概要、被害の現状と対策
第8回目	鳥獣害②	野生鳥獣による農林水産被害概要、被害の現状と対策
第9回目	保全①	自然環境保全地域
第10回目	保全②	都道府県自然環境保全地域
第11回目	絶滅危惧種とレッドリスト①	絶滅の危機にある動植物について
第12回目	絶滅危惧種とレッドリスト②	環境省のレッドリスト、絶滅危惧種の段階
第13回目	動物園の役割①	種の保全、教育、環境教育、調査、研究等
第14回目	動物園の役割②	レクリエーション
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	動物内科看護学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	犬と猫の健康・管理	犬と猫の健康について
第2回目	被毛や皮膚の管理	ブラッシング、シャンプー、歯磨きなど
第3回目	運動の管理・排泄の管理	散歩、運動量の算出、排泄による健康管理
第4回目	病気の早期発見のための管理	健常時と異常なしぐさ、容態の違い
第5回目	定期的な健康診断	定期的な検査(体重測定、検尿、検便、血液検査)
第6回目	バイタルサイン、バイタルチェック	バイタルサインとは
第7回目	動物病院での診療補助	診療補助について
第8回目	保定法①	保定とは、動物種による適切な保定
第9回目	保定法②	保定の種類
第10回目	食餌の管理と関わり	人工的な給仕、症状に合った調理
第11回目	輸液管理の基礎知識	輸液とは、必要性、輸液剤の種類
第12回目	輸液管理の目的、総輸液量の計算	輸液ラインに必要な機材の準備と観察
第13回目	輸液ルート、輸血	経口投与、皮下投与、静脈内投与、腹腔内投与、輸血事前検査
第14回目	注射針、シリンジ	注射針のサイズ、シリンジの取り扱いと基礎知識
第15回目	薬の取り扱い、基礎知識	薬の取り扱い

科目名	動物外科看護学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	習得した知識の実践力を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	外科診療時の補助に必要な技術	外科の補助について
第2回目	無菌操作の重要性	無菌とは、重要性
第3回目	手術前の動物に必要な情報	アセスメント、飼い主に必要な指示
第4回目	手術室の環境管理	手術室の環境について
第5回目	滅菌と消毒	滅菌と消毒の違い
第6回目	手術施設、設備の準備と管理	衛生的管理と清掃、器機の管理、消耗品の管理
第7回目	術者に必要な準備	手洗い、グローブの装着、ガウンの着脱と介助
第8回目	手術チームの準備	無菌、滅菌、消毒の知識
第9回目	手術器具の基礎知識①	器具の名称と役割
第10回目	手術器具の基礎知識②	器具の名称と役割
第11回目	手術器具の基礎知識③	器具の名称と役割
第12回目	手術器具の基礎知識④	適材適所の用途
第13回目	手術器具の基礎知識⑤	適材適所の用途
第14回目	手術準備	チェック表の活用
第15回目	前期まとめ	確認テスト

科目名	動物臨床栄養学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給事方法など臨床栄養学を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を修得し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物栄養学総論①	犬・猫の必要な栄養素の違い、適切な栄養管理
第2回目	動物栄養学総論②	六大栄養素とその働き(蛋白質)
第3回目	動物栄養学総論③	六大栄養素とその働き(炭水化物)
第4回目	動物栄養学総論④	六大栄養素とその働き(脂質・水)
第5回目	動物栄養学総論⑤	六大栄養素とその働き(ビタミン・ミネラル)
第6回目	イヌとネコの栄養要求の違い	必須栄養素・食事内容
第7回目	ライフステージ別栄養①	ライフステージ別栄養管理の必要性・幼齢期・成長期
第8回目	ライフステージ別栄養②	維持期・繁殖期・高齢期
第9回目	ペットフード市場・規則	ペットフード市場の現状とペットフードに関わる規則
第10回目	ペットフードの製造	ペットフードの製造方法(ドライ・ウェット)
第11回目	ペットフード表示の見方	フードのパッケージやラベルの意味・情報読み取り
第12回目	BCS評価とカロリー計算	BCS・BCSの読み取り・カロリー計算方法
第13回目	中毒物	犬・猫に与えてはいけないもの
第14回目	手作りフード①	手作りフードの意味
第15回目	手作りフード②	手作りフードの実践

科目名	動物臨床検査学- I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	小和田 友美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	さまざまな臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病院業務に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス) 動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	VTの仕事	VTの仕事内容について
第2回目	VTの仕事	VTの仕事内容について
第3回目	フィラリア検査	保定・採血・フィラリアキットの使用法
第4回目	フィラリア検査	フィラリアの予防薬・フロントラインの説明
第5回目	糞便検査	糞便検査について
第6回目	糞便検査	集卵法など
第7回目	尿検査	尿検査について・採尿法
第8回目	尿検査	採尿法・導尿・膀胱穿刺
第9回目	尿検査	尿検査について・物理的性状検査他
第10回目	尿検査	物理的性状検査
第11回目	尿検査	化学的検査について
第12回目	レントゲン撮影	放射線とは
第13回目	レントゲン撮影	X線の特徴
第14回目	レントゲン撮影	ポジショニング
第15回目	レントゲン撮影	ポジショニング

科目名	動物内科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物の健康管理①	食事と飲み水の管理
第2回目	動物の健康管理②	被毛・皮膚の健康管理
第3回目	動物の健康管理③	被毛・皮膚の健康管理
第4回目	動物の健康管理④	デンタルケア
第5回目	運動の管理と実践	散歩・安全な歩かせ方・歩行異常の見極め
第6回目	排泄の管理と実践	排泄による健康管理
第7回目	定期的な健康診断①	健常時と異常なしぐさ、容態の違いを知る
第8回目	定期的な健康診断②	バイタルチェック
第9回目	グルーミング①	グルーミング犬種のグルーミング方法
第10回目	グルーミング②	グルーミング犬種のグルーミング方法
第11回目	グルーミング③	グルーミング犬種のグルーミング方法
第12回目	グルーミング④	トリミング犬種のグルーミング方法
第13回目	グルーミング⑤	トリミング犬種のグルーミング方法
第14回目	グルーミング⑥	トリミング犬種のグルーミング方法
第15回目	グルーミング⑦	トリミング犬種のグルーミング方法

科目名	動物臨床検査学実習 I - I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	2単位 (I-I・I-II・II合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	阿部 温	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	動物看護師の仕事
第2回目	血液検査①	採血方法・分注
第3回目	血液検査②	血液塗抹作成
第4回目	血液検査③	簡易染色・ライトギムザ染色
第5回目	血液検査④	血液塗抹鏡検・白血球分比測定
第6回目	血液検査⑤	CBC検査・検査項目の説明
第7回目	血液検査⑥	PCV測定・ヘマトクリット管の観察
第8回目	血液検査⑦	網状赤血球の観察・NMB染色・100倍対物レンズの使用説明
第9回目	血液検査⑧	貧血について・赤血球の形態異常
第10回目	血液検査⑨	輸血について
第11回目	血液検査⑩	クロスマッチテスト
第12回目	血液検査⑪	血液型判定・血液塗抹
第13回目	血液検査⑫	抗原・抗体検査
第14回目	血液検査⑬	ELASA・イムノット・フィラリア抗原検査
第15回目	血液検査⑭	前期実習復習

科目名	グルーミング実習Ⅰ-I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	90時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	横手 郁美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を取得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	トリミング道具	道具の説明・鉄の開閉
第4回目～第6回目	カット練習	ウィッグでブラッシングの練習
第7回目～第9回目	カット練習	ウィッグでカットの練習
第10回目～第12回目	シャンプー実習①	実習犬でのシャンプー実習
第13回目～第15回目	シャンプー実習②	実習犬でのシャンプー実習
第16回目～第18回目	シャンプー実習③	実習犬でのシャンプー実習
第19回目～第21回目	シャンプー実習④	実習犬でのシャンプー実習
第22回目～第24回目	シャンプー実習⑤	実習犬でのシャンプー実習
第25回目～第27回目	シャンプー実習⑥	実習犬でのシャンプー実習
第28回目～第30回目	シャンプー実習⑦	実習犬でのシャンプー実習
第31回目～第33回目	シャンプー実習⑧	実習犬でのシャンプー実習
第34回目～第36回目	シャンプー実習⑨	実習犬でのシャンプー実習
第37回目～第39回目	シャンプー実習⑩	実習犬でのシャンプー実習
第40回目～第42回目	シャンプー実習⑪	実習犬でのシャンプー実習
第43回目～第45回目	シャンプー実習⑫	実習犬でのシャンプー実習

科目名	しつけトレーニング実習Ⅰ-Ⅰ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	犬・ネコの扱い方、トレーニング方法を理解することで家庭犬・猫のしつけを円滑に行う技術を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的な犬猫の扱い方を学び、動物にとってよき理解者となる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに使うもの一式		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	犬の扱い方	基本的な犬の扱い方を理解する
第2回目	猫の扱い方	基本的な猫の扱い方を理解する
第3回目	しつけトレーニング①	犬のほめ方、触り方
第4回目	しつけトレーニング②	猫のほめ方、触り方
第5回目	しつけトレーニング③	社会化トレーニング①
第6回目	しつけトレーニング④	社会化トレーニング②
第7回目	しつけトレーニング⑤	社会化トレーニング③
第8回目	しつけトレーニング⑥	社会化トレーニング④
第9回目	しつけトレーニング⑦	社会化トレーニング⑤
第10回目	しつけトレーニング⑧	犬猫の誘発法による行動トレーニング(座・伏・立)①
第11回目	しつけトレーニング⑨	犬猫の誘発法による行動トレーニング(座・伏・立)②
第12回目	しつけトレーニング⑩	犬猫の誘発法による行動トレーニング(座・伏・立)③
第13回目	しつけトレーニング⑪	犬猫の誘発法による行動トレーニング(座・伏・立)④
第14回目	しつけトレーニング⑫	犬猫の誘発法による行動トレーニング(座・伏・立)⑤
第15回目	しつけトレーニング⑬	前期まとめ及び期末試験対策

科目名	動物飼育実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	飼育管理①	学校飼育の心構え
第2回目	飼育実習②	飼育動物ポップ作り
第3回目	飼育管理③	飼育動物ポップ作り
第4回目	飼育実習④	飼育管理方法
第5回目	飼育管理⑤	トラブルの対処法や予防策
第6回目	飼育実習⑥	トラブルの対処法や予防策
第7回目	飼育管理⑦	おもちゃ作り
第8回目	飼育実習⑧	おもちゃ作り
第9回目	飼育管理⑨	おもちゃ作り
第10回目	飼育実習⑩	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第11回目	飼育管理⑪	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第12回目	飼育実習⑫	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第13回目	飼育管理⑬	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第14回目	飼育実習⑭	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第15回目	飼育管理⑮	お互いの動きを把握し、効率よく実践する

科目名	ビジネスマナー		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	神邊 明里	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	「社会常識」、「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」を中心に社会で働くために求められる能力を習得することを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	社会人としての一般常識がわかり、人間関係を潤滑にすすめるコミュニケーションがろれるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	全国経理教育協会主催 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率・期末テストの評価を考慮し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会常識①	一般知識
第2回目	社会常識②	職業観と企業・社会の仕組み
第3回目	社会常識③	仕事の進め方
第4回目	コミュニケーション①	職場の人間関係
第5回目	コミュニケーション②	社会人としての話し方
第6回目	コミュニケーション③	ビジネス文書
第7回目	ビジネスマナー①	接遇マナー
第8回目	ビジネスマナー②	訪問のマナー
第9回目	ビジネスマナー③	電話対応
第10回目	ビジネスマナー④	交際業務
第11回目	ビジネスマナー⑤	会議
第12回目	ビジネスマナー⑥	郵便
第13回目	ビジネスマナー⑦	ファイリング
第14回目	検定対策①	過去問題演習
第15回目	検定対策②	過去問題演習

科目名	動物看護総合実習 I - I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	16時間～24時間	単位数	2単位 (I-I・I-II合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	2～3日間で16～24時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(体験型実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・保定補助
- ・手術助手
- ・調剤補助
- ・各種検査

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	動物形態機能学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト2(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	呼吸器①	呼吸器の成り立ちと構造・働き
第3回目～第4回目	呼吸器②	ガス交換・外呼吸と内呼吸・アシドーシス・アルカローシス
第5回目～第6回目	消化器①	消化器の成り立ちと構造・働き、口腔内器官
第7回目～第8回目	消化器②	胃・腸の成り立ちと構造・働き、排泄
第9回目～第10回目	消化器③	膵臓・肝臓・胆のうの成り立ちと構造・働き
第11回目～第12回目	造血器①	骨髄と血液の関連、血液の成り立ち
第13回目～第14回目	造血器②	血液の成分と働き、血液凝固因子と血液凝固
第15回目～第16回目	循環器①	心臓の位置と外形・内部構造、刺激伝導系
第17回目～第18回目	循環器②	拍出、血圧、血管の種類・構造・働き、体循環と肺循環
第19回目～第20回目	泌尿器①	泌尿器の成り立ちと構造・働き
第21回目～第22回目	泌尿器②	腎臓の構造と働き
第23回目～第24回目	免疫	細胞性免疫・体液性免疫、アレルギー
第25回目～第26回目	繁殖	雌雄生殖器の構造と働き、妊娠、出産
第27回目～第28回目	内分泌①	内分泌機能と作用、ホルモン
第29回目～第30回目	内分泌②	代表的なホルモンと働き

科目名	動物感染症学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を学ぶ。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学び、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト3(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	微生物学⑫	ウイルスの性状と構造
第3回目～第4回目	微生物学⑬	イヌ・ネコに感染するウイルス感染症
第5回目～第6回目	微生物学⑭	産業動物・野生動物に感染するウイルス感染症
第7回目～第8回目	寄生虫学①	寄生虫の定義・分類
第9回目～第10回目	寄生虫学②	内部寄生虫の分類 線虫類
第11回目～第12回目	寄生虫学③	内部寄生虫の分類 条虫類・吸虫類
第13回目～第14回目	寄生虫学④	消化器症状を示す内部寄生虫①
第15回目～第16回目	寄生虫学⑤	消化器症状を示す内部寄生虫②
第17回目～第18回目	寄生虫学⑥	外部寄生虫の分類 昆虫類・ダニ類
第19回目～第20回目	寄生虫学⑦	原虫類の分類
第21回目～第22回目	寄生虫学⑧	イヌ・ネコに感染する原虫感染症①
第23回目～第24回目	寄生虫学⑨	寄生虫の検査方法
第25回目～第26回目	ワクチン・免疫	犬と猫の代表的なワクチン・免疫反応
第27回目～第28回目	アレルギー	アレルギーの分類
第29回目～第30回目	衛生管理	滅菌法・消毒薬

科目名	動物看護学概論-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護師の需要と必要性①	動物看護師の需要
第2回目	動物看護師の需要と必要性②	動物看護師の必要性
第3回目	動物看護師の倫理綱領①	動物看護師の倫理綱領①
第4回目	動物看護師の倫理綱領②	動物看護師の倫理綱領②
第5回目	動物看護師の倫理綱領③	動物看護師の倫理綱領③
第6回目	動物看護学の成立と特徴①	動物看護学、動物看護学教育
第7回目	動物看護学の成立と特徴②	動物看護学における課題
第8回目	看護の役割と機能①	施設内から在宅へ
第9回目	看護の役割と機能②	退院計画、退院指導、継続動物看護の必要性
第10回目	動物看護管理①	チームナーシング
第11回目	動物看護管理②	看護方式の種類
第12回目	動物看護管理③	クリティカル・パス、リーダーシップ、メンバーシップ
第13回目	インフォームド・コンセント①	インフォームド・コンセントとは、前提条件
第14回目	インフォームド・コンセント②	インフォームド・コンセントを実施する際の問題点
第15回目	まとめ	後期 まとめ

科目名	公衆衛生学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	食品衛生法①	規定
第2回目	食品衛生法②	食品の安全確保のための法体系
第3回目	食品衛生法③	食品の安全確保のための法体系
第4回目	規格・基準①	食品一般
第5回目	規格・基準②	乳・乳製品、添加物
第6回目	規格・基準③	乳・乳製品、添加物
第7回目	人獣共通感染症の定義	新興感染症と再興感染症
第8回目	人獣共通感染症①	感染経路
第9回目	人獣共通感染症②	対策法
第10回目	人獣共通感染症③	予防
第11回目	人獣共通感染症④	主な人獣共通感染症
第12回目	人獣共通感染症⑤	主な人獣共通感染症
第13回目	人獣共通感染症⑥	狂犬病予防の重要性
第14回目	疫学、薬剤耐性	定義、概要、健康障害、疫学の指標、サーベイランス、対策
第15回目	後期まとめ	まとめ

科目名	動物行動学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト4(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物行動学の基礎	行動学概論、行動学の歴史、動物の家畜化、行動の周期性
第2回目	犬学・猫学①	犬種の作出と歴史、犬種と行動変化
第3回目	犬学・猫学②	猫種の作出と歴史、猫種と行動変化
第4回目	行動の発現と機序	行動の動機付け、神経伝達物質
第5回目	行動の発達と機能①	行動発達(発達段階の分類)
第6回目	行動の発達と機能②	行動発達(発達段階の分類)
第7回目	犬と猫の維持行動①	発達ステージと特徴的な行動
第8回目	犬と猫の維持行動②	発達ステージと特徴的な行動
第9回目	犬と猫の性行動・社会行動	犬・猫の性行動、犬猫の社会行動
第10回目	しつけ・トレーニングの理論と応用①	馴化と感作、古典的条件づけ、オペラント条件づけ
第11回目	しつけ・トレーニングの理論と応用②	トイレトレーニング、クレートトレーニング
第12回目	しつけ・トレーニングの理論と応用③	パピークラス、しつけ・トレーニングに利用する道具
第13回目	問題行動総論	定義、要因、主な問題行動、修正と予防
第14回目	犬の問題行動	犬の問題行動例
第15回目	猫の問題行動	猫の問題行動例

科目名	伴侶動物学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	さまざまな動物の特性と人との関わりを理解し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト4(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ウサギの品種と特徴①	ウサギの品種、日常の管理
第2回目	ウサギの品種と特徴②	飼養管理
第3回目	ウサギの品種と特徴③	使用施設
第4回目	フェレットの飼養管理①	フェレットの品種、日常の管理
第5回目	フェレットの飼養管理②	飼養管理
第6回目	フェレットの飼養管理③	使用施設
第7回目	ハムスターの品種と特徴①	ハムスターの品種、日常の管理
第8回目	ハムスターの品種と特徴②	飼養管理
第9回目	ハムスターの品種と特徴③	使用施設
第10回目	飼鳥の品種と特徴①	飼鳥の品種、日常の管理
第11回目	飼鳥の品種と特徴②	飼養管理
第12回目	飼鳥の品種と特徴③	使用施設
第13回目	エキゾチック①	総まとめ
第14回目	エキゾチック②	総まとめ
第15回目	エキゾチック③	総まとめ

科目名	動物外科看護学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	消耗品管理の重要性	在庫管理の重要性、チェック表の活用
第2回目	術前、術中の動物管理と看護①	手術前の検査の有無、術前の食止め、飲水管理
第3回目	術前、術中の動物管理と看護②	痛みの管理(鎮痛処置についての基礎知識)
第4回目	術中の補助①	動物看護師の関わる業務
第5回目	術中の補助②	モニタリング、バイタルチェック
第6回目	術中麻酔に関する基礎知識①	麻酔のモニタリング
第7回目	術中麻酔に関する基礎知識②	麻酔器の知識
第8回目	術中麻酔に関する基礎知識③	麻酔導入から覚醒まで、麻酔記録
第9回目	術後管理	安全確保、動物の観察と看護、痛みの観察と管理
第10回目	衛生管理①	包帯法の基礎知識
第11回目	衛生管理②	包帯法の種類
第12回目	衛生管理③	術創の保護に必要な知識
第13回目	衛生管理④	創傷管理
第14回目	衛生管理⑤	創傷管理
第15回目	後期まとめ	確認テスト

科目名	動物臨床看護学総論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護課程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を修得し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程とは	動物看護過程の目的・意義
第2回目	アセスメント①	入院の受け入れとアセスメントの目的・意義
第3回目	アセスメント②	アセスメントの方法
第4回目	動物看護計画①	動物看護計画の目的・意義
第5回目	動物看護計画②	動物看護計画の作成方法
第6回目	動物看護記録①	動物看護記録の目的・意義
第7回目	動物看護記録②	動物看護記録の書き方
第8回目	ケーススタディー①	事例を用いた動物看護過程の実践
第9回目	ケーススタディー②	事例を用いた動物看護過程の実践
第10回目	QOLとは	QOLの説明・QOLについて考える
第11回目	ターミナルケアとは	ターミナルケアの目的・意義
第12回目	ケーススタディー	事例を用いたターミナルケアの実践
第13回目	動物の看取り	入院動物・在宅療養動物の死・飼い主への対応
第14回目	エンゼルケア①	エンゼルケアの目的・意義・方法
第15回目	エンゼルケア②	エンゼルケアの実践

科目名	動物臨床栄養学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給事方法など臨床栄養学を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を修得し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	口腔内疾患・消化器疾患①	歯周病・胃拡張と胃捻転症候群の食事管理
第2回目	消化器疾患②	胃炎・腸炎の食事管理
第3回目	消化器疾患③	巨大結腸症・脂肪肝の食事管理
第4回目	消化器疾患④	門脈シャント・膵炎の食事管理
第5回目	泌尿器疾患①	腎臓病の食事管理
第6回目	泌尿器疾患②	尿路結石・猫下部尿路疾患の食事管理
第7回目	循環器疾患	心臓病の食事管理
第8回目	内分泌疾患	糖尿病の食事管理
第9回目	皮膚疾患	食物アレルギー・食物不耐症の食事管理
第10回目	運動器疾患	関節炎の栄養管理
第11回目	がん・認知障害	がん・認知障害の栄養管理
第12回目	強制的な給事方法	経腸栄養法・静脈による栄養法
第13回目	療法食①	疾患別による栄養特性
第14回目	療法食②	疾患別による栄養特性
第15回目	療法食③	疾患別による栄養特性

科目名	動物臨床検査学-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	小和田 友美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	さまざまな臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病院業務に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	心電図検査①	心電図の原理、刺激伝導系、心電図検査手順と準備
第2回目	心電図検査②	ポジショニングと保定
第3回目	心電図検査③	記録と解析内容の意味
第4回目	X線検査①	X線装置の基本原理、散乱線と防護、安全と防護の重要性
第5回目	X線検査②	撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定
第6回目	X線検査③	暗室での作業、現像手順とフィルム管理
第7回目	X線検査④	廃液処理、CRシステムについて
第8回目	超音波検査①	超音波診断装置の意基本原理
第9回目	超音波検査②	プローブの種類と取り扱い、検査法の手順、準備と補助
第10回目	内視鏡検査	内視鏡の種類、異物摘出、生検、洗浄
第11回目	CT、MRI、PET検査	CT検査、MRI検査、PET検査の違い
第12回目	神経学的検査①	観察、検査の意味と結果でわかること
第13回目	神経学的検査②	姿勢反応試験、脊髄反射試験
第14回目	神経学的検査③	脳神経機能試験
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	動物形態機能学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	45時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の体の形態と機能を骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通して学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、動物看護師統一認定試験のに合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト2(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1・2回目	体の表面	体位と方向を示す用語
第3・4回目	骨格①	上半身の骨・代表的な骨のスケッチ
第5・6回目	骨格②	下半身の骨・代表的な骨のスケッチ
第7回目	骨格③	関節
第8・9回目	内臓器官①	雄の特徴的な内臓の位置と概観を知る
第10・11回目	内臓器官②	雌の特徴的な内臓の位置と概観を知る
第12・13回目	内臓器官③	代表的な内臓のスケッチ
第14・15回目	代表的な浅層の筋	代表的な浅層の筋の名称と働き
第16・17回目	代表的な深層の筋	代表的な深層の筋の名称と働き
第18回目	顕微鏡の操作方法	適切な顕微鏡の操作方法を知る
第19回目	組織像の観察①	スケッチ(細胞配列)
第20回目	組織像の観察②	スケッチ(甲状腺・気管)
第21回目	組織像の観察③	スケッチ(胃・腸)
第22回目	組織像の観察④	スケッチ(腎臓・肝臓)
第23回目	組織像の観察⑤	スケッチ(膀胱・肺)

科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位 (Ⅰ-Ⅰ・Ⅰ-Ⅱ・Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	阿部 温	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	血液検査⑫	採血・血液塗抹・簡易染色・鏡検
第2回目	血液検査⑬	骨髄検査
第3回目	血液検査⑭	血液化学検査(抗凝固剤・血清分離)・項目の説明・肝臓疾患検査
第4回目	血液検査⑮	肝機能・腎機能・蛋白の検査
第5回目	血液検査⑯	血清分離(チューブの違い)
第6回目	血液検査⑰	血液生化学検査(ALP・AST)
第7回目	血液検査⑱	内分泌検査(副腎検査・甲状腺検査・ACTHテスト)
第8回目	血液検査⑲	内分泌検査(糖尿病・インスリン・Gle)
第9回目	血液検査⑳	血糖値測定(メカニズム・使用方法)
第10回目	血液検査㉑	凝固系検査
第11回目	血液検査㉒	線溶系検査(フィブリノーゲン・APTT・PT測定)
第12回目	血液検査㉓	DICについて・TAT(トロンビン)
第13回目	血液検査㉔	貯留液の検査・各種類説明
第14回目	血液検査㉕	ウイルス検査・ワクチンチェック・電解質検査
第15回目	血液検査㉖	後期実習復習

科目名	動物外科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	習得した知識の実践力を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	外科診療時の補助に必要な技術	外科の補助について
第2回目	無菌操作の重要性	無菌とは、重要性
第3回目	手術前の動物に必要な情報	アセスメント、飼い主に必要な指示
第4回目	手術室の環境管理	手術室の環境について
第5回目	滅菌と消毒	滅菌と消毒の違い
第6回目	手術施設、設備の準備と管理	衛生的管理と清掃、器機の管理、消耗品の管理
第7回目	術者に必要な準備	手洗い、グローブの装着、ガウンの着脱と介助
第8回目	手術チームの準備	無菌、滅菌、消毒の知識
第9回目	手術器具の基礎知識①	器具の名称と役割
第10回目	手術器具の基礎知識②	器具の名称と役割
第11回目	手術器具の基礎知識③	器具の名称と役割
第12回目	手術器具の基礎知識④	適材適所の用途
第13回目	手術器具の基礎知識⑤	適材適所の用途
第14回目	手術準備	チェック表の活用
第15回目	前期まとめ	確認テスト

科目名	グルーミング実習Ⅰ-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	90時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	横手 郁美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を取得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	シャンプー・バリカン実習①	シャンプー・バリカン実習
第4回目～第6回目	シャンプー・バリカン実習②	シャンプー・バリカン実習
第7回目～第9回目	シャンプー・バリカン実習③	シャンプー・バリカン実習
第10回目～第12回目	シャンプー・バリカン実習④	シャンプー・バリカン実習
第13回目～第15回目	シャンプー・バリカン実習⑤	シャンプー・バリカン実習
第16回目～第18回目	カット実習①	犬種に合ったカット実習
第19回目～第21回目	カット実習②	犬種に合ったカット実習
第22回目～第24回目	カット実習③	犬種に合ったカット実習
第25回目～第27回目	カット実習④	犬種に合ったカット実習
第28回目～第30回目	カット実習⑤	犬種に合ったカット実習
第31回目～第33回目	カット実習⑥	犬種に合ったカット実習
第34回目～第36回目	カット実習⑦	犬種に合ったカット実習
第37回目～第39回目	カット実習⑧	犬種に合ったカット実習
第40回目～第42回目	カット実習⑨	犬種に合ったカット実習
第43回目～第45回目	実技試験	後期実技試験

科目名	しつけトレーニング実習Ⅰ-Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	基礎トレーニングにおいて、犬や猫の学習理論に則ったトレーニングを行う技術を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トレーニングを自ら考えて実践する力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに使うもの一式		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	しつけトレーニング①	犬の散歩トレーニング①
第2回目	しつけトレーニング②	犬の散歩トレーニング②
第3回目	しつけトレーニング③	犬の散歩トレーニング③
第4回目	しつけトレーニング④	犬の散歩トレーニング④
第5回目	しつけトレーニング⑤	犬の散歩トレーニング⑤
第6回目	しつけトレーニング⑥	犬・猫のクレートトレーニング①
第7回目	しつけトレーニング⑦	犬・猫のクレートトレーニング②
第8回目	しつけトレーニング⑧	犬・猫のクレートトレーニング③
第9回目	しつけトレーニング⑨	犬・猫のクレートトレーニング④
第10回目	しつけトレーニング⑩	トレーニング立案
第11回目	しつけトレーニング⑪	各班で立案したトレーニングの実践①
第12回目	しつけトレーニング⑫	各班で立案したトレーニングの実践②
第13回目	しつけトレーニング⑬	各班で立案したトレーニングの実践③
第14回目	しつけトレーニング⑭	グループ間共有
第15回目	しつけトレーニング⑮	後期まとめ及び期末試験対策

科目名	社会人常識基礎		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	15時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	インターンシップ・就職活動において企業の情報収集、社会人としての心構えなどを理解する。社会人常識マナー検定は、社会人として必要な知識やマナーの習得を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	社会人常識マナー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	社会人常識マナー検定テキスト2・3級 (産学社)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会常識	一般常識、ビジネス計算
第2回目	コミュニケーション	ビジネスコミュニケーション、ビジネス文章
第3回目	ビジネスマナー	職場のマナー、交際業務
第4回目	総合問題演習	過去問題演習
第5回目	インターンシップ①	インターンシップ事前指導
第6回目	インターンシップ②	履歴書作成①
第7回目	インターンシップ③	履歴書作成②
第8回目	インターンシップ④	電話の掛け方・訪問の仕方

科目名	動物看護総合実習 I - II		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	40時間～80時間	単位数	2単位 (I - I・I - II合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	5～10日間で40～80時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習 (補助型実習～実務型実習)

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く (感想・反省・自己評価)
- ・ 保定補助
- ・ 手術助手
- ・ 調剤補助
- ・ 各種検査

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	動物看護学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	15時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職として社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護学概論①	動物看護の中で、動物看護の基本概念、動物看護師と獣医師の業務の違い
第2回目	動物看護学概論②	ナイチンゲールとヘンダーソン女史について、動物看護が必要になる場面を考える
第3回目	動物看護学概論③	動物看護師の視点、診療場面での動物看護師の役割
第4回目	動物看護学概論④	概論のまとめ
第5回目	動物の看護過程展開①	動物看護過程の必要性、看護過程の5つの要素
第6回目	動物の看護過程展開②	5つの構成要素、アセスメント、SOAPモデル
第7回目	動物の看護過程展開③	看護の実行と評価
第8回目	動物の看護過程展開④	看護過程の展開 まとめ

科目名	動物繁殖学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	15時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物のからだの構造と機能を理解する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト2(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	遺伝の基礎知識	遺伝とは、遺伝の基本法則
第2回目	繁殖	交配の種類や交配動物の検査
第3回目	遺伝性疾患	股関節形成不全、臍ヘルニア、膝蓋骨脱臼等
第4回目	雌の繁殖器官	雌特有の生殖器の構造・機能・生理
第5回目	雄の繁殖器官	雄特有の生殖器の構造・機能・生理
第6回目	発情周期・妊娠期	イヌ・ネコの発情周期、交配、妊娠診断、食事
第7回目	助産・繁殖系疾患	分娩過程、異常分娩、帝王切開、産褥期疾患
第8回目	動物ごとの違い	イヌ・ネコ以外の動物の繁殖器官と胎盤

科目名	臨床動物看護学Ⅰ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	中野 佳代子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	さまざまな疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)、わかる犬の病気(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	消化器疾患①	形態と機能、嚥下困難、嘔吐・下痢・便秘
第2回目	消化器疾患②	歯周疾患、急性胃拡張、毛球症、ウイルス
第3回目	消化器疾患③	細菌、腸内寄生虫、ヘルニア、肛門嚢他
第4回目	泌尿器系疾患①	形態と機能、排尿異常、尿の色調
第5回目	泌尿器系疾患②	多渴・多尿、腎不全
第6回目	泌尿器系疾患③	ネコの下部尿路疾患、尿石症他
第7回目	内分泌系疾患①	形態と機能、甲状腺機能低下症
第8回目	内分泌系疾患②	糖尿病
第9回目	内分泌系疾患③	副腎皮質機能低下症
第10回目	皮膚疾患①	形態と機能、内分泌皮膚疾患
第11回目	皮膚疾患②	アレルギー性皮膚疾患
第12回目	皮膚疾患③	免疫介在性皮膚疾患
第13回目	皮膚疾患④	感染性皮膚疾患
第14回目	皮膚疾患⑤	脂漏症他
第15回目	前期まとめ	まとめ

科目名	動物入院管理		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護課程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を修得し、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程とは	動物看護過程の目的・意義
第2回目	アセスメント①	入院の受け入れとアセスメントの目的・意義
第3回目	アセスメント②	アセスメントの方法
第4回目	動物看護計画①	動物看護計画の目的・意義
第5回目	動物看護計画②	動物看護計画の作成方法
第6回目	動物看護記録①	動物看護記録の目的・意義
第7回目	動物看護記録②	動物看護記録の書き方
第8回目	ケーススタディー①	事例を用いた動物看護過程の実践
第9回目	ケーススタディー②	事例を用いた動物看護過程の実践
第10回目	QOLとは	QOLの説明・QOLについて考える
第11回目	ターミナルケアとは	ターミナルケアの目的・意義
第12回目	ケーススタディー	事例を用いたターミナルケアの実践
第13回目	動物の看取り	入院動物・在宅療養動物の死・飼い主への対応
第14回目	エンゼルケア①	エンゼルケアの目的・意義・方法
第15回目	エンゼルケア②	エンゼルケアの実践

科目名	動物病理学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト3(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物疾病学総論①	病理学の意味、役割を知る
第2回目	動物疾病学総論②	疾病の原因、内因、外因、疾病とホメオスタシスについて
第3回目	病気の変遷①	病気の発症の機序、病気の成り立ちと変遷
第4回目	病気の変遷②	臓器の変化
第5回目	細胞や組織に生じる変化①	細胞障害の過程、因子
第6回目	細胞や組織に生じる変化②	細胞障害を受けた細胞の変化
第7回目	退行性病変①	組織の委縮と変性
第8回目	退行性病変②	壊死とアポトーシス、萎縮
第9回目	進行性病変①	肥大と増生
第10回目	進行性病変②	化生、再生、創傷の治癒、骨折の治癒
第11回目	循環障害①	血液の循環障害(充血、うっ血、虚血、出血、ショック)
第12回目	循環障害②	血液凝固、血液の閉塞、組織液の循環障害
第13回目	炎症	原因と役割、5大徴候、経過と治癒過程、急性炎症、慢性炎症
第14回目	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態的特徴、原因と発生メカニズム、腫瘍の種類
第15回目	奇形、組織標本、まとめ	先天異常、奇形の発生様式、分類、組織標本、まとめ

科目名	動物薬理学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト3(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	薬理学総論	薬理学とは
第2回目	薬物の剤形、投与方法	薬物の剤形(内服・注射・外用薬)、投与方法
第3回目	薬物動態	体内の薬物の動き、効果発現までの流れ
第4回目	薬効に影響を与える因子	効果に影響を与える因子、頻度、年齢、性別
第5回目	薬剤の特性①	神経系に作用する薬物
第6回目	薬剤の特性②	呼吸器系に作用する薬物
第7回目	薬剤の特性③	循環器・泌尿器に作用する薬物
第8回目	薬剤の特性④	消化器に作用する薬物
第9回目	薬剤の特性⑤	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物
第10回目	薬剤の特性⑥	血液・免疫系に作用する薬物①
第11回目	薬剤の特性⑦	血液・免疫系に作用する薬物②
第12回目	薬剤の特性⑧	化学療法薬
第13回目	薬剤の特性⑨	駆虫薬、抗腫瘍薬
第14回目	薬用量の計算①	薬剤の有効成分、投与量計算方法
第15回目	薬用量の計算②	練習問題、まとめ

科目名	院内コミュニケーション I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	3単位 (IとII合わせて)
授業方法	講義(演習を含む)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物医療現場における飼い主・外部との対応の方法を学ぶ。 また、コミュニケーション能力をあげるための基本的な接遇トレーニングを行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病院業務に必要な、接遇スキルや接客マナーを修得する。また、動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	オリエンテーション①	コミュニケーション・接遇
第3回目～第4回目	飼い主のお迎え・診察室への案内	初診時・再診時のお迎え・案内
第5回目～第6回目	質問と傾聴	質問・傾聴の意義・方法
第7回目～第8回目	電話対応	電話対応の方法・色々な飼い主での電話対応の方法
第9回目～第10回目	外部対応	企業等の対応方法
第11回目～第12回目	緊急時対応	緊急時の対応方法
第13回目～第14回目	訪問と対応のマナー	企業や飼い主宅への訪問時のマナー等
第15回目～第16回目	待合室管理①	待合室の改善策の考案・掲示ポスターの作成
第17回目～第18回目	待合室管理②	掲示ポスターの作成
第19回目～第20回目	待合室管理③	掲示ポスターの作成
第21回目～第22回目	クレーム対応①	飼い主さまの理解・事前期待
第23回目～第24回目	クレーム対応②	感情バケツ・問題の原因
第25回目～第26回目	クレーム対応③	クレームの意味と実態
第27回目～第28回目	クレーム対応④	クレームに対する考え方
第29回目～第30回目	実技の復習	前期実習の復習

科目名	動物看護実習Ⅱ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	75時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I・Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	診療現場に必要な観察力及び基本的手技を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	グルーミング実習・消毒薬①	グルーミング実習、消毒薬の種類
第3回目～第4回目	グルーミング実習・消毒薬②	グルーミング実習、適用範囲、感染症とその病原体に有効な消毒薬
第5回目～第6回目	グルーミング実習・消毒薬③	グルーミング実習、感染経路
第7回目～第8回目	グルーミング実習・診療補助①	グルーミング実習、保定法(犬・猫・ウサギ)
第9回目～第10回目	グルーミング実習・診療補助②	グルーミング実習、保定法(鳥・その他)
第11回目～第12回目	グルーミング実習・診療補助③	グルーミング実習、保定法(各検査別)
第13回目～第14回目	グルーミング実習・聴診	グルーミング実習、聴診器各部の名称・使用方法
第15回目～第17回目	グルーミング実習・助産	グルーミング実習、助産時の手順
第18回目～第20回目	グルーミング実習・カテーテル	グルーミング実習、経鼻・尿道カテーテルの方法
第21回目～第23回目	グルーミング実習・調剤	グルーミング実習、医薬品、取り扱い
第24回目～第26回目	グルーミング実習・入院管理	グルーミング実習、入院舎の清掃、衛生管理
第27回目～第29回目	グルーミング実習・シリンジ	グルーミング実習、シリンジの取り扱い
第30回目～第32回目	グルーミング実習・輸液	グルーミング実習、輸液留置準備
第33回目～第35回目	グルーミング実習・包帯法	グルーミング実習、包帯法手技
第36回目～第38回目	グルーミング実習・まとめ	グルーミング実習、総まとめ

科目名	動物福祉論		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識から動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規や人の関わりから動物福祉への精神を養う。近代の動物福祉の基本的な考え方である「5つの自由」を基に、飼育動物にとってそれらが満たされるとはどういう事を考察する。また、家庭飼育動物、学校飼育動物、使役動物、産業動物、実験動物、野生動物に存在する動物及び動物種による「生活の質」を考えて、個々の動物のための看護を提供することで、飼い主及び関係者にも動物福祉の概念を伝えられることも大切である。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物福祉の概念を理解し、伝えることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト1(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物福祉とは	人の福祉、動物の福祉とは何か
第2回目	動物福祉の歴史	人と動物の歴史の変遷の中で築かれてきた動物との関わり
第3回目	日本における動物福祉①	日本における動物に関わる法律や規制
第4回目	日本における動物福祉②	「狂犬病予防法」「動物の愛護及び管理に関する法律」
第5回目	5つの自由	動物福祉の基本的な考え方
第6回目	HABの認識①	動物介在活動の参加
第7回目	HABの認識②	動物介在療法、動物介在活動、動物介在教育
第8回目	生活の質(QOL)の認識	動物種による「生活の質」
第9回目	環境エンリッチメント	展示動物に対してその種らしさを発揮できる環境整備
第10回目	動物福祉の考え方	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識
第11回目	伴侶動物の福祉	飼い主と動物の絆を大切に考えた対応、環境整備
第12回目	動物病院における福祉	動物病院での福祉について学ぶ
第13回目	学校飼育動物の福祉	学校飼育動物の福祉について学ぶ(シチュエーションから考える)
第14回目	産業動物の福祉	産業動物の福祉について学ぶ(シチュエーションから考える)
第15回目	実験動物・野生動物の福祉	実験動物・野生動物の福祉について学ぶ(シチュエーションから考える)

科目名	動物臨床検査学実習 I - II ①		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	2単位 (I・I-II①・②合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	安中 靖	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	講義で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基礎的手技を身に付け、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに検体検査及び生体検査の目的と意義を理解し習得する。採血した検体を用いた検査では、尿・糞便・血液等の各種検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	身体検査①	CRT、体表、リンパ節
第2回目	身体検査②	耳、口腔
第3回目	一般身体検査①	スクリーニング検査
第4回目	一般身体検査②	検体の適切な取扱い
第5回目	尿検査①	採尿方法、化学的検査(PH、Pro、Glu、ケトン)
第6回目	尿検査②	尿沈渣
第7回目	尿検査③	化学的検査、潜血
第8回目	尿検査④	円柱、結晶の種類
第9回目	X線検査①	X線装置の基本原理
第10回目	X線検査②	撮影条件
第11回目	X線検査③	撮影条件、手技
第12回目	X線検査④	防護について、撮影ポジショニング
第13回目	X線検査⑤	X線の読影
第14回目	血圧測定	血圧について、血圧測定の手法
第15回目	まとめ	総まとめ、期末対策

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I～Ⅳ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	阿部 温	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	動物看護師の仕事
第2回目	血液検査①	採血方法・分注
第3回目	血液検査②	血液塗抹作成
第4回目	血液検査③	簡易染色・ライトギムザ染色
第5回目	血液検査④	血液塗抹鏡検・白血球分比測定
第6回目	血液検査⑤	CBC検査・検査項目の説明
第7回目	血液検査⑥	PCV測定・ヘマトクリット管の観察
第8回目	血液検査⑦	網状赤血球の観察・NMB染色・100倍対物レンズの使用説明
第9回目	血液検査⑧	貧血について・赤血球の形態異常
第10回目	血液検査⑨	輸血について
第11回目	血液検査⑩	クロスマッチテスト
第12回目	血液検査⑪	血液型判定・血液塗抹
第13回目	血液検査⑫	抗原・抗体検査
第14回目	血液検査⑬	ELASA・イムノット・フィラリア抗原検査
第15回目	血液検査⑭	前期実習復習

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-Ⅱ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I～Ⅳ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	概論・顕微鏡の使い方①	顕微鏡の名称・しくみ
第2回目	顕微鏡の使い方②	操作法
第3回目	顕微鏡の使い方③	操作法の実践
第4回目	組織像の観察①	スケッチ(細胞配列)
第5回目	組織像の観察②	スケッチ(甲状腺・気管)
第6回目	組織像の観察③	スケッチ(胃・腸)
第7回目	組織像の観察④	スケッチ(腎臓・肝臓)
第8回目	組織像の観察⑤	スケッチ(膀胱・肺)
第9回目	細胞診検査①	細胞診検査の目的・意義・必要物品
第10回目	細胞診検査②	細胞診検査の手順
第11回目	細胞診検査③	検査の実践
第12回目	皮膚の検査①	皮膚の検査の目的・意義・解剖生理
第13回目	皮膚の検査②	皮膚の検査の目的・意義・解剖生理
第14回目	皮膚の検査③	皮膚の疾患
第15回目	皮膚の検査④	各検査方法と実践

科目名	外科動物看護実習Ⅱ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位 (Ⅱ-I・Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術の補助をするために必要な基礎知識を学び、外科看護技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)・動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	周術期の看護と手術室での看護の役割
第2回目	生体モニター①	生体モニターの目的・機能
第3回目	生体モニター②	読み取り
第4回目	麻酔①	麻酔の目的・意義
第5回目	麻酔②	麻酔のメカニズム
第6回目	麻酔③	麻酔に必要な物品・薬剤
第7回目	麻酔④	麻酔記録の意義と書き方
第8回目	模擬手術準備・消毒	手術台の準備・術野の消毒
第9回目	外科器具の復習	小動物の手術でよく使われる器具の復習
第10回目	外科器具	小動物の手術で使われる器具
第11回目	模擬去勢手術 シュミレーション	術式の確認・必要物品の準備
第12回目	模擬勢避妊手術 シュミレーション	術式の確認・必要物品の準備
第13回目	模擬手術	発表
第14回目	歯科学①	歯の解剖生理・疾患
第15回目	歯科学②	歯科治療器具

科目名	グルーミング実習Ⅱ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	90時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできる。 全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第4回目～第6回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第7回目～第9回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第10回目～第12回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第13回目～第15回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第16回目～第18回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第19回目～第21回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第22回目～第24回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第25回目～第27回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第28回目～第30回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第31回目～第33回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第34回目～第36回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第37回目～第39回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第40回目～第42回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第43回目～第45回目	実技試験	前期期末 実技試験

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ-I		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位 (Ⅱ-I・Ⅱを合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	犬・猫のトレーニングを実践するだけでなく、人に伝えるためのインストラクションテクニックを身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	あらゆる種類のトレーニング方法を実践する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに使うもの一式		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	1年次復習	1年次のトレーニングを確認
第2回目	トレーニング立案	各グループごとに実践するトレーニングプランを立てる
第3回目	しつけトレーニング①	グループで考えたトレーニングの実践
第4回目	しつけトレーニング②	グループで考えたトレーニングの実践
第5回目	しつけトレーニング③	グループで考えたトレーニングの実践
第6回目	アドバイス①	実践したトレーニング内容をアドバイスする資料を作成
第7回目	アドバイス②	実践したトレーニング内容をアドバイスする資料を作成
第8回目	プレゼンテーション	作成した資料を基に発表
第9回目	しつけトレーニング①	グループで考えたトレーニングの実践
第10回目	しつけトレーニング②	グループで考えたトレーニングの実践
第11回目	しつけトレーニング③	グループで考えたトレーニングの実践
第12回目	アドバイス①	実践したトレーニング内容をアドバイスする資料を作成
第13回目	アドバイス②	実践したトレーニング内容をアドバイスする資料を作成
第14回目	プレゼンテーション	作成した資料を基に発表
第15回目	まとめ	後期まとめ及び期末試験対策

科目名	総合臨床実習		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	90時間	単位数	3単位 (2年間で4クール以上)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識及び倫理感を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	2年間で135時間習得しなければならない。		

授業計画内容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(インターンシップ)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・保定補助
- ・手術助手
- ・調剤補助
- ・各種検査

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	動物飼育実習Ⅱ-I・II		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期 後期
授業時数	90時間	単位数	2単位 (Ⅱ-I、Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美 ・ 原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに使うもの一式		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。また、トレーニングについては、実技試験にて成績を判定する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	動物管理①	1年生に飼育実習を教える
第4回目～第6回目	動物管理②	1年生に飼育実習を教える
第7回目～第9回目	動物管理③	1年生に飼育実習を教える
第10回目～第12回目	動物管理④	1年生に飼育実習を教える
第13回目～第15回目	動物飼育①	飼育に関する技術の実践と応用
第16回目～第18回目	動物飼育②	飼育に関する技術の実践と応用
第19回目～第21回目	動物飼育③	飼育に関する技術の実践と応用
第22回目～第24回目	動物飼育④	飼育に関する技術の実践と応用
第25回目～第27回目	動物飼育⑤	飼育に関する技術の実践と応用
第28回目～第30回目	動物飼育⑥	飼育に関する技術の実践と応用
第31回目～第33回目	飼育動物・しつけ方教室①	パワーポイント作成、しつけ方教室のプランを作成する
第34回目～第36回目	飼育動物・しつけ方教室②	パワーポイント作成、しつけ方教室のプランを作成する
第37回目～第39回目	飼育動物・しつけ方教室③	パワーポイント作成、しつけ方教室のプランを作成する
第40回目～第42回目	飼育動物・しつけ方教室④	パワーポイント作成、しつけ方教室練習
第43回目～第45回目	飼育動物・しつけ方教室⑤	発表、実際にしつけ方教室を行う

科目名	動物人間関係学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	人と動物の絆(HAB)の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育などの社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学ぶ。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト1(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	人と動物の関係の歴史	人と動物の関係の歴史について理解する
第2回目	人と動物の関係	野生動物が家畜化され人の関係をつくる経緯を理解する
第3回目	動物が人に及ぼす影響①	生理的効果、心理的効果
第4回目	動物が人に及ぼす影響②	社会的効果、使役動物
第5回目	動物が人に及ぼす影響③	動物介在活動について①
第6回目	動物が人に及ぼす影響④	動物介在活動について②
第7回目	動物が人に及ぼす影響⑤	動物介在療法、教育について
第8回目	様々な人と動物の関係①	子どもと動物について①
第9回目	様々な人と動物の関係②	子どもと動物について②
第10回目	様々な人と動物の関係③	高齢者・罪を犯した人と動物について
第11回目	動物の死とペットロス①	ペットロスの概要について理解する
第12回目	動物の死とペットロス②	安楽死について理解する
第13回目	動物の死とペットロス③	安楽死についての討論会準備
第14回目	動物の死とペットロス④	安楽死についての討論会
第15回目	授業のまとめ	第1～14回のまとめ

科目名	臨床動物看護学 I - II・II		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	中野 佳代子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	さまざまな疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)、わかる犬の病気(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	生殖機能系疾患①	形態と機能、子宮蓄膿症
第3回目～第4回目	生殖機能系疾患②	乳腺腫瘍、前立腺肥大
第5回目～第6回目	生殖機能系疾患③	雄と雌の各種機能疾患
第7回目～第8回目	血液・リンパ系疾患①	形態と機能
第9回目～第10回目	血液・リンパ系疾患②	貧血、リンパ節の腫脹
第11回目～第12回目	神経系疾患①	形態と機能、椎間板ヘルニア
第31回目～第14回目	神経系疾患②	水頭症、てんかん、その他
第51回目～第16回目	眼疾患①	形態と機能、睫毛疾患、眼瞼疾患、角膜疾患、強膜疾患
第17回目～第18回目	眼疾患②	結膜疾患、水晶体疾患、網膜疾患、涙腺疾患、眼球疾患
第19回目～第20回目	骨関節疾患①	形態と機能、骨折、脱臼
第21回目～第22回目	骨関節疾患②	股関節形成不全、大腿骨頭壊死症、アキレス腱断裂、他
第23回目～第24回目	感染性疾患①	感染の概要、ウイルス感染症
第25回目～第26回目	感染性疾患②	細菌感染症、真菌感染症
第27回目～第28回目	感染性疾患③	外部寄生虫感染症
第29回目～第30回目	後期まとめ	総まとめ

科目名	幼齢動物・老齢動物管理		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	主にイヌやネコの新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かし、また、老齢動物の管理、介護を理解し飼い主やその家族に寄り添った在宅看護に活用する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	コンパニオン・アニマルの新健康管理		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	幼齢動物の管理①	新生子のケア
第2回目	幼齢動物の管理②	新生子のケア
第3回目	幼齢動物の管理③	幼齢動物の健康チェック
第4回目	幼齢動物の管理④	主な疾患とその予防
第5回目	幼齢動物の管理⑤	主な疾患とその予防
第6回目	老齢動物の管理①	老齢の身体的変化
第7回目	老齢動物の管理②	老齢の身体的変化
第8回目	老齢動物の管理③	老齢期の適切な飼育環境
第9回目	老齢動物の管理④	老齢期の日常生活における介護
第10回目	老齢動物の管理⑤	老齢期の日常生活における介護
第11回目	老齢動物の管理⑥	老齢動物の慢性疾患
第12回目	老齢動物の管理⑦	老齢動物の慢性疾患
第13回目	老齢動物の管理⑧	老齢動物の主な疾患と予防
第14回目	老齢動物の管理⑨	老齢動物の主な疾患と予防
第15回目	老齢動物の管理⑩	老齢動物の主な疾患と予防

科目名	救急救命対応		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	15時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	心肺停止状態をはじめとする緊急状態は、いつどのような状態で生じるか予測できない。その際、チーム獣医療スタッフとして救急救命処置の適切な補助を行う救命関与は大きく、緊急処置を必要とする看護動物の来院時に適切な対応を速やかに実施できることが必要である。手順や準備を理解し、確実に対応できるよう準備と訓練が必要となる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	救急救命の手法を理解する。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	救急疾患・輸血	救急疾患、ショック、輸血
第2回目	心肺停止・心肺蘇生	心肺停止、心肺蘇生術、CPRの基本
第3回目	救急薬品の知識、モニター	救急薬品について、CPA患者とモニター
第4回目	救急疾患の基礎知識①	外傷エマージェンシー、眼科エマージェンシー
第5回目	救急疾患の基礎知識②	神経エマージェンシー、中毒エマージェンシー
第6回目	救急疾患の基礎知識③	熱射病エマージェンシー、呼吸エマージェンシー
第7回目	救急疾患の基礎知識④	心血管エマージェンシー
第8回目	輸液療法、輸液製剤	救急時の輸液療法、輸液製剤について

科目名	クライアントエデュケーション		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病院業務に必要な知識を修得する。また、動物看護師統一認定機構主催動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	クライアントエデュケーション概論	クライアントエデュケーションの目的
第2回目	クライアントサービス	クライアントサービスとは
第3回目	クライアントの信頼を得る	身なり・対応
第4回目	動物病院の現状	社会の変化
第5回目	クライアントエデュケーションの実践①	クライアントへの心づかい
第6回目	クライアントエデュケーションの実践②	クライアントへの心づかい
第7回目	クライアントエデュケーションの実践③	クライアントへの心づかい
第8回目	クライアントエデュケーションの実践④	健康管理・ズーノーシス・ワクチン接種等リーフレット作成
第9回目	クライアントエデュケーションの実践⑤	健康管理・ズーノーシス・ワクチン接種等リーフレット作成
第10回目	クライアントエデュケーションの実践⑥	健康管理・ズーノーシス・ワクチン接種等リーフレット作成
第11回目	クライアントエデュケーションの実践⑦	健康管理・ズーノーシス・ワクチン接種等リーフレット作成
第12回目	グリーフケア①	グリーフケアについて考える
第13回目	グリーフケア②	グリーフケアについて考える
第14回目	グリーフケア③	グリーフケアについて考える
第15回目	グリーフケア④	グリーフケアについて考える

科目名	院内コミュニケーションⅡ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	15時間	単位数	3単位 (ⅠとⅡ合わせて)
授業方法	講義(演習を含む)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物医療現場における飼い主・外部との対応の方法を学ぶ。 また、コミュニケーション能力をあげるための基本的な接遇トレーニングを行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病院業務に必要な、接遇スキルや接客マナーを修得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト5(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	クレーム対応⑤	クレーム対応の基本スキル
第2回目	クレーム対応⑥	実際のクレーム事例でのケーススタディー
第3回目	薬の説明①	薬の計算・調剤
第4回目	薬の説明②	お渡し方法
第5回目	精算業務①	診察料金の計算・診療明細書の作成
第6回目	精算業務②	診療明細書の作成・お渡し
第7回目	実技の復習①	前期実習の復習
第8回目	実技の復習②	後期実習の復習

科目名	動物看護実習Ⅱ-Ⅱ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	60時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I・Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	診療現場に必要な観察力及び基本的手技を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	グルーミング実習・包帯法	グルーミング実習、包帯手法
第3回目～第4回目	グルーミング実習・スキンケア①	グルーミング実習、皮膚と被毛
第5回目～第6回目	グルーミング実習・スキンケア②	グルーミング実習、実践スキンケア法
第7回目～第8回目	グルーミング実習・スキンケア③	グルーミング実習、各症状とその対応①
第9回目～第10回目	グルーミング実習・スキンケア④	グルーミング実習、各症状とその対応②
第11回目～第12回目	グルーミング実習・スキンケア⑤	グルーミング実習、各症状とその対応③
第13回目～第14回目	グルーミング実習・スキンケア⑥	グルーミング実習、各症状とその対応④
第15回目～第16回目	グルーミング実習・創傷①	グルーミング実習、創傷管理
第17回目～第18回目	グルーミング実習・創傷②	グルーミング実習、褥瘡と創傷の治療方法
第19回目～第20回目	グルーミング実習・創傷③	グルーミング実習、治療の進め方
第21回目～第22回目	グルーミング実習・口腔歯科①	グルーミング実習、口腔歯科の基礎、歯の検査
第23回目～第24回目	グルーミング実習・口腔歯科②	グルーミング実習、歯垢、歯石除去
第25回目～第26回目	グルーミング実習・口腔歯科③	グルーミング実習、歯周外科処置
第27回目～第28回目	グルーミング実習・口腔歯科④	グルーミング実習、歯周病予防
第29回目～第30回目	グルーミング実習	グルーミング実習、総まとめ

科目名	動物臨床検査学実習 I - II ②		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位 (I・I-II①・②合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	安中 靖	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	講義で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基礎的手技を身に付け、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに検体検査及び生体検査の目的と意義を理解し習得する。採血した検体を用いた検査では、尿・糞便・血液等の各種検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	習得した知識の実践力を身に付ける。 また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)、動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	糞便検査①	概論、物理学的性状検査
第2回目	糞便検査②	顕微鏡学的検査(直接法)
第3回目	超音波検査①	概論、検査準備(毛刈り)、装置の取り扱い、操作法
第4回目	超音波検査②	臓器の描出
第5回目	超音波検査③	画像観察
第6回目	内視鏡検査①	実践方法、準備、スコープの取り扱い・洗浄法
第7回目	内視鏡検査②	生検、症例
第8回目	CT・MRI・PET検査	CT・MRI・PETの原理・検査手技
第9回目	神経学的検査①	視診、触診、姿勢反応試験
第10回目	神経学的検査②	脊髄反応試験、脳神経機能試験、知覚試験
第11回目	心電図検査①	概論、基本原理
第12回目	心電図検査②	波形と検査意義
第13回目	心電図検査③	検査準備、操作法
第14回目	グラム染色	目的、手順、実践
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-Ⅲ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I～Ⅳ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	阿部 温	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	血液検査⑫	採血・血液塗抹・簡易染色・鏡検
第2回目	血液検査⑬	骨髄検査
第3回目	血液検査⑭	血液化学検査(抗凝固剤・血清分離)・項目の説明・肝臓疾患検査
第4回目	血液検査⑮	肝機能・腎機能・蛋白の検査
第5回目	血液検査⑯	血清分離(チューブの違い)
第6回目	血液検査⑰	血液生化学検査(ALP・AST)
第7回目	血液検査⑱	内分泌検査(副腎検査・甲状腺検査・ACTHテスト)
第8回目	血液検査⑲	内分泌検査(糖尿病・インスリン・Gle)
第9回目	血液検査⑳	血糖値測定(メカニズム・使用方法)
第10回目	血液検査㉑	凝固系検査
第11回目	血液検査㉒	線溶系検査(フィブリノーゲン・APTT・PT測定)
第12回目	血液検査㉓	DICについて・TAT(トロンビン)
第13回目	血液検査㉔	貯留液の検査・各種類説明
第14回目	血液検査㉕	ウイルス検査・ワクチンチェック・電解質検査
第15回目	血液検査㉖	後期実習復習

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-Ⅳ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	45時間	単位数	3単位 (Ⅱ-I～Ⅳ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	検査の意義を理解し、手順書を見なくても一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習する。検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう、一連の流れを習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各検査の手法を理解し、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト(インターズー)・動物看護コアテキスト6(ファームプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	眼科検査①	眼科検査の目的・意義・解剖生理
第2回目	眼科検査②	眼の疾患・各検査方法と実践
第3回目	耳の検査①	耳の検査の目的・意義・解剖生理
第4回目	耳の検査②	耳の疾患・各検査方法と実践
第5回目	微生物学的検査①	微生物学的検査の目的・意義・滅菌と消毒と殺菌の違い
第6回目	微生物学的検査②	細菌と真菌の種類・細菌培養
第7回目	微生物学的検査③	真菌培養・菌の同定
第8回目～第9回目	微生物学的検査④	薬剤感受性試験・菌種と抗生物質
第10回目～第11回目	尿検査①	尿検査の目的・意義・必要物品
第12回目～第13回目	尿検査②	各採尿法・化学的検査・項目
第14回目～第15回目	尿検査③	尿検査の手順・検査の実践
第16回目～第17回目	動物看護師統一認定試験対策①	実地試験対策
第18回目～第19回目	動物看護師統一認定試験対策②	実地試験対策
第20回目～第21回目	動物看護師統一認定試験対策③	実地試験対策
第22回目～第23回目	動物看護師統一認定試験対策④	実地試験対策

科目名	外科動物看護実習Ⅱ-Ⅱ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	15時間	単位数	1単位 (Ⅱ-I・Ⅱ合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 由香莉	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術の補助をするために必要な基礎知識を学び、外科看護技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付け、動物看護師統一認定試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護コアテキスト6(ファームプレス)・動物看護実習テキスト(インターズー)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	術後管理①	炎症
第2回目	術後管理②	創傷治癒過程
第3回目	術後管理③	手術後の創傷管理
第4回目	術後管理④	手術後の創傷管理(実践)
第5回目	腫瘍学①	腫瘍の基礎知識
第6回目	腫瘍学②	腫瘍診断と看護
第7回目	腫瘍学③	腫瘍治療と看護
第8回目	実技演習①	手術台の準備・術野の消毒・手術後の創傷管理復習

科目名	グルーミング実習Ⅱ-Ⅱ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	90時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	須永 裕美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。 また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第4回目～第6回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第7回目～第9回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第10回目～第12回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第13回目～第15回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第16回目～第18回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第19回目～第21回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第22回目～第24回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第25回目～第27回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第28回目～第30回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第31回目～第33回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第34回目～第36回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第37回目～第39回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第40回目～第42回目	カット実習	実習犬でのカット実習
第43回目～第45回目	検定実技試験	サロントリマー検定3級 実技試験(期末含)

科目名	動物看護師学		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	15時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護師統一認定試験の出題傾向を認識し、さまざまな過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護師に必要な知識を習得し、全ての分野の理解を深める。また、動物看護師統一認定機構が主催する動物看護師統一認定試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	各分野の全テキスト、配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護師統一認定試験概要	動物看護師統一認定試験とは、過去問題、解説
第2回目	過去問題①	過去問題、解説
第3回目	過去問題②	過去問題、解説
第4回目	過去問題③	過去問題、解説
第5回目	過去問題④	過去問題、解説
第6回目	過去問題⑤	過去問題、解説
第7回目	過去問題⑥	過去問題、解説
第8回目	まとめ	最終確認、試験について

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ-Ⅱ		
学科名	国際動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	15時間	単位数	1単位 (Ⅱ-I・Ⅱを合わせて)
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	子犬・子猫の対応から成犬・成猫のそれぞれのステージにおけるトレーニング方法や問題行動予防方法を身につける。 また、しつけ方教室を実施し飼い主へトレーニング方法を伝える技術を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	あらゆる種類のトレーニング方法を実践する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに使うもの一式		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	問題行動について	ファミリー犬・猫の抱える問題行動について考える
第2回目	問題行動修正・予防①	ファミリー犬・猫の問題行動について修正・予防を行う
第3回目	問題行動修正・予防②	ファミリー犬・猫の問題行動について修正・予防を行う
第4回目	問題行動修正・予防③	ファミリー犬・猫の問題行動について修正・予防を行う
第5回目	問題行動まとめ	トレーニング内容及び今後の対応方法をまとめる
第6回目	トリックについて	ファミリー犬のトリック(芸)を考える
第7回目	トリックトレーニング①	トリックトレーニングを実践
第8回目	トリックトレーニング②	トリックトレーニングを実践